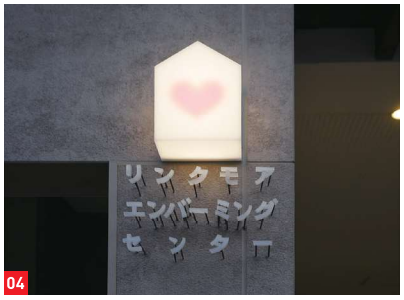
01

02

03



04

■施設概要

●施設名称
「いのりのいおり」（安置棟）
「リンクモア エンバーミングセンター」（エンバーミング棟）

●総敷地面積
1,107.18㎡（第２期工事の新社屋スペースも含む）

●建築面積
安置棟　86.12㎡
エンバーミング棟　70.61㎡

●建物構造
木造平屋建て

●事業主体
㈱リンクモア

青森･リンクモア
遺体安置＋エンバーミング複合施設を開設

青森県青森市を拠点に葬祭事業を展開する㈱リンクモア（社長船橋素幸氏）は、遺体安置室「いのりのいおり」（以下、安置棟）と、県内初となるエンバーミング施設「リンクモア エンバーミングセンター」（以下、エンバーミング棟）からなる複合施設をオープンした。

安置棟は、グランドオープン前の５月20･21日および27日に内覧会を実施し、本格的な稼動は6月から。エンバーミング棟は６月15日にグランドオープンし、すでに１件施行を終えている。

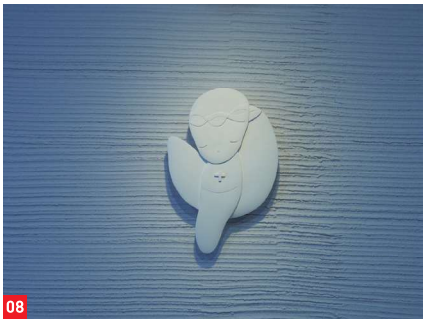
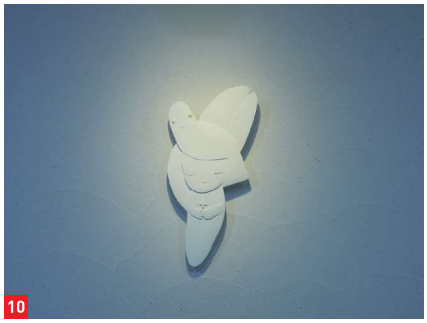
JR奥羽本線青森駅から車で約10分、青森自動道青森中央ICから同約15分、国道４号と県道103号が交わる国道NTT交差点から約200mの場所に立地し、同社本社のちょうどはす向かいに位置する。

同社では24年４月、同地に新社屋を新設する予定だが、今回の複合施設は全体敷地面積1,107.18㎡の一部に先行して開業したもの。

安置棟・エンバーミング棟合わせて敷地面積221.93㎡、延床面積156.73㎡（安置棟86.12㎡、エンバーミング棟70.61㎡）で、ともに木造平屋建て。２棟の間に木造の屋根が印象的なピロティを設け、施設の一体感を演出する。

安置棟には、ワンルームタイプの居室３部屋を用意。「こもれび」「せせらぎ」「さえずり」と名づけられた各室は、木の温もりが感じられるフローリングに左官職人によるそれぞれ異なる模様の塗り壁に仕上げてアクセントとした。

そのほか、青森県野辺地町出身の日本画

01　今年5月に竣工した遺体安置棟「いのりのいおり」とエンバーミング施設「リンクモア エンバーミングセンター」からなる複合施設（正面入口側から撮影）
02　2棟をつなぐ木造屋根。夜間になると灯される明かりが幻想的になる（建物後方から撮影）
03・04　2棟それぞれにはアイキャッチとなるシンボルマークとロゴタイプを配した
05・06　安置棟「こもれび」ルームの室内と野坂徹夫氏制作によるレリーフ
07・08　安置棟「せせらぎ」ルームとレリーフ
09・10　安置棟「さえずり」ルームとレリーフ
11　エンバーミングセンターの遺体安置室（保冷庫2基／4体収容可能）
12　エンバーミング施術台

家野坂徹夫氏が各ルームのイメージに合わせて制作した柔和な表情が特徴の天使のレリーフを安置スペースの上部に飾るなど、“暖かさと癒しの空間づくり”を施している。

エンバーミング棟は、遺体安置用保冷庫２基（４体収容可能）とエンバーミング処置室（施術台１台）のほか、エンバーマー用の事務所などから構成。エンバーミング処置は仙台市泉区に本社を置く㈱センティストが担う。

今回の２棟開設について、リンクモアの船橋素幸社長は、「コロナ禍中、故人様が入院中に面会できないまま亡くなってしまうケースがみられたように、故人との時間をゆっくりもちたいとするニーズが高まっています。加えて、葬儀の小規模化・簡素化が進むなか、身内数人だけで送りたいとする人もふえました。また、東北地方でエンバーミング施設がないのは、青森県と秋田県の２県のみという実情もあります。これまでにも数件、エンバーミングを必要とする故人様がおられましたが、その際には仙台まで移送し処置していたため、50万円近い費用が必要でした」と語る。

「エンバーミングは、遺族らのグリーフケアにも通じる」と、“よいお別れを実現する１つの選択肢”になるのではないか、という思いもあったようだ。

エンバーミング棟の利用については、「青森県内初のエンバーミング施設であること」「開設にあたり、事業再構築補助金（4,000万円）を活用していること」などを踏まえ、広く県内の葬儀社にも開放し、たとえ、他社からのエンバーミング依頼であっても、一般価格19万4,400円（リンクモア会員価格は16万円、いずれも税別）で請け負うとしている。

エンバーミング棟が本格稼動した際には、県内エンバーミング需要の受け皿として、その役割を果たしていく考えだ。